傘寿を機に

12期生　佐々木幸政

平成23年11月２８日は忘れもしない日となりました。生まれて初めての手術を受けた日です。親から授かった丈夫な体にメスを入れる事に抵抗があったからです。

振り返ってみると、この世に生を受け、７歳ぐらいまでは病弱な子供でしたが、四国の愛媛に疎開し、剣道・田植え・稲刈り・山での松根油作り、昭和２０年の大型台風被害と小学校を４回も転校・昭和２１年に中学入学即大阪へ転校・豊中市庄内より大阪市北区中津への転居。タケノコ生活・食糧難・生活苦のなか、両親と子供６人の長男として家庭を少しでも支えなければ、と思いながらも向学心は衰えず、夜学に進学した。

就職先は石油問屋の丁稚であった。エネルギーも石炭から石油の時代となり、続いて化学・樹脂・精密化学と技術革新が進むと共に国力も回復、時流に乗ったといえ就職先も専門商社として大きく発展した。退職までの５０年間、ヨーロッパを除く海外出張の経験も積み高分子化学加工工場も、台湾・韓国・上海・無錫・マレーシア・アメリカのヒューストン・サンジェゴに拠点を持つようになった。家庭のことは顧みず頑張り、退職後も大阪の実家の仕事もあり、東京～大阪の往復が続き、今考えると大きな病気もせず頑張れたのも、家人のおかげと感謝し、ゆっくりと老後を楽しもうと「ＮＨＫ生涯学習」や、最寄りの「市民講座」に参加と、いろいろやっていたが、ついに手足の痺れと痛みを感じ、精密検査をしたところ、脊椎間狭窄症の診断を受け、平成１９年頃、長期歩行が困難になったが休み休み楽しんでいた。

平成２４年結婚５０周年でもあり、家人に感謝の意味もこめて、奥飛騨温泉郷２泊３日ドライブも楽しんだ。杖をつきながら行動していたが、右足先が垂れ足となり、気をつけないと転ぶようになったので再度精密検査を受けた。即手術入院の診断があったが、なかなか踏ん切りがつかず迷っていたが、このまま放置すれば健常な左足も不自由になると宣告され、１１月に手術の決断をした。

術後順調に回復し、平成25年に筋肉トレーニングのリハビリ中、左足に重心が偏り捻挫、1か月間も屋内での車椅子生活となる。その間介護認定も要支援２から要介護１になった。

東京北辰会・懇談会も目前のことであったが、松尾会長、前田事務局長・小林さんに連絡をとり実行願い、盛会であったとお聞きし安堵した次第です。

同期の石丸陽一君（在京都）渡邊壽君（在千葉）には、ぎりぎり迄再開を楽しみにさせてしまい申し訳のないことをしてしまった。

リハビリは週３回・訪問ケアー１回を続けていたが右足に重心がのらず、無理にかけると体重を支えきれず転倒し、よくなる感じがないため、２５年11月胸部脊椎・腰部脊椎のＭＲＩでチェックして神経は繋がっており問題ないため、筋電図検査を受けた。筋肉は衰えているが今の体重（６７ｋｇ）を支える力はあるようで、結局、頭からの神経の伝達が不十分のため、右足をあげようと思ってもあがらないとしか考えられず、今年の早々に神経内科での検査待ちで、その結果で改めての対処療法を考えていきたい。

振り返ってこの１年間、元通りの回復は難しいとしても、せめて二本杖で外出できることを期待して懸命に努力したことが何であったのか、今まで物を取るにも、次の行動を起こすにも、寝返りをうつにも、敷居を跨ぐにも、体が自然に動いて問題はなかったが、今は何をするにも３～５倍の時間がかかり、ストレスの連続である。

外の空気にも触れられず、いくら読書が好きといえども疲れるばかりで、テレビを見ても、お笑い番組が多く、ＮＨＫも番組宣伝するようになり、興味のわくドラマは午後10時以降で（この時間は寝ている）ある。あまりテレビを見るとボケルといわれ、ボケ防止を兼ねた指先の運動を意識した伝統木工芸の制作を手掛けた。

始めて見ると熱中してしまい時間を忘れ、縮尺された国宝多重塔３基（薬師寺三重の東塔１/７５・室生寺五重塔１/５０・法隆寺五重塔１/８０）や白川郷合掌造り民家を完成した。

この一年間を振りかえれば、希望・体感のない気持ちの衰え・挫折。筋トレ・期待・挫折・挑戦・・・の繰り返しであったが、最近では徹底的に原因の確認後、希望を捨てず、生ある事に感謝し、焦らずゆっくり、天命まで楽しもうと思っている。これまでは多くの先輩方の励ましをいただき教えられる毎日であった。

昨年末 22 年間舌癌と闘っている友人の闘病記で〔手術をしたので病気ではない〕。でも後遺症とでもいうかＱＯＬ（生命の質）に問題がある。「病気が治る」という言葉の意味は、必ずしも元に戻るという意味ではない。手術をすれば短期の回復期間を得て元気でいられると言うことである。これまでの闘病で癌が転移して何回も手術してきたが最近の細胞検査では「良性」とわかり、とたんに全身の緊張が抜けた。また元気になっちゃった。を読み、元気になり健常者の生活を期待した軽薄であった自分が恥ずかしくなると共に「目から鱗」病気に対する考え方が一変し、現在の心境になれたが、これからの生涯に時間的な期待は望むべきでない。天命に従い、大切に一所懸命努力し、無理せず、現状維持を心がけ、できることを楽しもうと思って居ります。目下上体と頭の方はボケてないように思いますので、東京北辰会の世話役として引き続き努力したいと思っています。

先輩を訪ねて

12 期生　佐々木幸政

平成 16 年東京北辰会・懇親会を再開、丁度六本木ヒルズが出来て 1 年後であり最上階のコンベンションルームで開催のところ諸先輩、在京諸兄姉始め大阪からも会長・事務局長・緒兄姉の参加を願い盛大に立ち上げる事が出来ました。久ぶりのことでもあり、時間を忘れ散会となりました。

國米亨先輩（4 期生）も体調不良のところお誘いし、元気にご出席いただき、北辰同窓の誇りと伝統を懐かしく思われ、後日ご丁重なお喜びの手紙を戴きました。お手紙を掲載させて戴きますが、短いお手紙のなかにも青春の余韻がにじみ出て会長ともども再会して良かったと思い、永く続ける決意をしたものでした。

先輩は、“東京北辰会だより”第 1 号にて、ご紹介の通り永年、青少年の教育に専念され、その教え子たちからは、真摯な教育者として尊敬され、教えを受けた生徒たちは、立派に巣立っています。私も先輩と同じ東村山に在しており、ご近所の父兄や生徒たちからも、そのお人柄は良く聞いております。退職後は趣味として謡曲を・健康管理から太極拳に精をだされ、永年続けている囲碁は離島での教職の無理から眼をわるくされ控えておられます。近所ですので教えてもらえないのが残念でなりません。

その後、東京北辰会・懇親会の案内を差し上げても体調の不調から、出席が無理のようなので平成 24 年に迷惑を顧みず自宅にお邪魔しました。高齢の事でもあり、外出はほとんどされないようですが、デイサービスに通ておりお元気でした。北辰会の益々の発展と緒兄姉のご健康と“東京北辰会”並びに“東京北辰会だより”の継続を強く望まれていました。

先輩に後ろから押されている責任を感じる一日でした。

國米 亨 様からの手紙

東京北辰会
佐々木　幸政様
幹事の方々、まことにご苦労様です
昨年十月、六本木ヒルズの北辰会、お世話に相成りました。
星霜の時流を翔び交うわだかまりのない歓談にひたり、そ
の懐かしさにひそむ感慨の余韻などなど、人知れずそっと
己れをいとおしむ思いさえよぎるひとときを過ごしまし
た。参加各位が、客衣を脱ぎ杯を交わし、友よし、景観よ
し、銘酒よし、三位一体の心地よいうたげでした。
それにしましても、遠路わざわざ多数の方々のご参加など、
頭の下がる思いです。それもこれも、幹事の方々のご配慮、
唯々感謝につきます。有難うございました。
私事ですが既に八十路をたどり、このころ増々、身心共に
加齢化現象の深まりを感じております。それだけに、せめ
て養生に心し、一応、歳相応に達者でありたいと念じおる
昨今です。

國米　亨